

# 事務事業チェックシート

事務事業No 39 事業名 広域行政推進事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費 その他		管理経費	○
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		総務費	
	項		総務管理費	
	目		企画調整費	
	大事業 事項		企画調整事業 広域行政推進事業	

[長期総合計画]

分野別目標	6	その他
政策	5	広域行政と地方分権の推進
施策	1	広域行政と地方分権の推進
基本方針		

[まち・ひと・しごと創生総合戦略]

基本目標		
政策		
施策		

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間	平成16年度	～	
事業実施の根拠法令			
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	企画課		玉置和彦 (435-1015)
関連課			

[3つの約束・44の約束]との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
				○
44の約束				○

## 1 事業概要及び実施内容

事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
「吉野川・紀の川流域協議会」を設立し流域の豊かな水環境を保全、創出していく。	奈良県川上村から和歌山市の吉野川・紀の川流域の市町村で、「吉野川・紀の川流域協議会」を構成して、広域的な連携に取り組み、豊かな水環境を含む自然環境を守るため、各市町村30,000円の負担金で、体験学習会、源流体験学習会、水環境に関する講演会を年間2回開催するとともに、広報誌やホームページを通じて広報啓発を行う。				
実施内容	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	○水環境に関する講演会 ○体験学習会 ○源流体験研修会 の実施	○水環境に関する講演会 ○体験学習会 ○源流体験研修会 の実施	○水環境に関する講演会 ○体験学習会 ○源流体験研修会 の実施	○水環境に関する講演会 ○体験学習会 ○源流体験研修会 の実施	○水環境に関する講演会 ○体験学習会 ○源流体験研修会 の実施

## 2 事業コスト

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	237	131	286	134	408	164	394		394	
伸び率 (%)	-	-	20.7%		42.7%		-3.4%		0.0%	
人件費	常勤職員	11,719	10,873	10,873	4,174	4,174	5,149	5,149	5,149	
	非常勤職員									
	小計	11,719	10,873	10,873	4,174	4,174	5,149	5,149	5,149	
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源 (税等)	237	131	286	134	408	164	394		394	
所要人数	常勤職員	1.29	1.45	1.45	0.55	1.45	0.68	0.68	0.68	
	非常勤職員									
主な予算内訳										

## 3 目標及び実績

		指標名及び達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
活動指標	各事業開催についての広報誌による掲載	年度目標値	3	3	3	3	3			
		実績値	3	3	3					
	単位	件	全体目標値	3	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	100.0%	100.0%	100.0%
	年度目標値									
成果指標	講演会等参加者数	年度目標値	100	100	100	100	100			
		実績値	99	114	90					
	単位	人	全体目標値	100	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	99.0%	114.0%	90.0%
	年度目標値									
	実績値									
	単位		全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度			

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	協議会で実施している事業（体験学習会、講演会、源流体験研修会）については、毎年一定規模の参加者数を確保し、吉野川・紀の川流域の住民の交流が図られるとともに、豊かな水環境の保全に一定の貢献をしている。
「見直し」 「改善」案	これまで、事業等を通して吉野川・紀の川流域の住民の交流を図り、豊かな水資源の保全に貢献してきており、さらに多くの市町村民の方が参加しやすい環境をつくる必要がある。 また、会員である市町村との一層の連携強化を図り、総合施策の推進ができるよう取り組む必要がある。